

令和2年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業  
 (Ⅱ 定住外国人の子供の就学促進事業)  
 事業内容報告書の概要

都道府県・市区町村・協議会名【 岐阜県・可児市 】

令和2年度に実施した取組の内容及び成果と課題

1. 事業の実施体制

就学年齢前から就学年齢を超えた外国籍の子どもで就学等を希望するものに対して、市とNPO団体が連携してそれぞれのニーズにあった教室を実施する。

	教室 (学校外)	コーディネート	受入先
就学年齢前 の子ども	就学前準備指導教室 「ひよこ教室」 NPO法人可児市国際交流協会	国際交流協会 教室コーディネーター	小学校 中学校
初めて日本の公立小 中学校へ就学希望す る子ども	初期適応指導教室 「ばら教室KANI」 市教育委員会	ばら教室コーディネータ ー	国際教室 ↓ 在籍学級
不登校の子ども	不登校の子どもの就学指導教室「ゆ め教室」「ゆめスマイル」 NPO法人可児市国際交流協会	国際交流協会 就学コーディネーター	
就学年齢を超えた子 ども	就学年齢を超えた子どもの高校進学 支援教室「さつき教室」 NPO法人可児市国際交流協会	国際交流協会 進学コーディネーター	高校 地域活動



□連携団体 (事業委託団体)

団体名称：特定非営利活動法人可児市国際交流協会

代表者名：理事長 渡邊孝夫

所在地：〒509-0203 岐阜県可児市下恵土 1185 番地 7 (可児市多文化共生センター内)

連絡先：0574-60-1200

団体概要： 市民主導により 2000 年に「可児市国際交流協会」を設立。設立当初は日本語学習や異文化交流などが中心であったが、2003 年の外国人の子供の教育調査によって不就学の子供の存在が明らかとなり以後、外国人の子供の就学支援等に力を入れている。

2008 年に NPO 法人となり、同年から可児市多文化共生センター指定管理者として管理、運営を行っている。また、今回申請する各教室については、これまで国際交流協会が実施してきた事業を継続して行うものである。

団体組織：役員会 (顧問 2 人、監事 2 人、理事 8 人で構成)

会員数 663 人 (正会員 228 人、賛助会員 435 人)

事務局スタッフ 12 人

## 2. 具体の取組内容

### ①不就学等の外国人の子供に係る学校等との連絡調整

- ・市教育委員会との情報交換
- ・市外国籍児童生徒コーディネーターとの情報交換

### ②学校外における、不就学等の外国人の子供に対する日本語、教科若しくは母語指導又は学習習慣の確保に係る指導のための教室の開設

可児市の公共施設を活用し、年齢や就学に対する子どもの状況に合わせて、日本語、教科、生活習慣等の指導を行えるよう、4つの教室を設置した。

#### ア) 初期適応指導教室「ばら教室KANI」(市教育委員会)

日本の公立小中学校への就学を初めて希望する児童生徒や他の市町から転入してきた日本語に困難のある児童生徒を対象に、学校生活に必要な初期的な日本語指導や生活指導等を集中的に実施した。令和2年度の修了者は27名であった。

- ・初期指導では、基礎的な日本語指導だけではなく、学校のきまりやマナーなど規範意識を育む生活指導、当番活動や清掃活動などの日本の学校生活に関する指導、日本の文化や習慣に関する指導、食生活への適応など、日常の中で包括した実践に留意した指導を行った。
- ・多くの不安や悩みを抱える保護者との連携を密にとりながら、積極的な教育相談に努めた。
- ・在籍学校の見学や、在籍学校の先生に「ばら教室KANI」の授業参観を依頼するなど、連携を密に行った。

#### イ) 未就園児の小学校入学前準備指導「ひよこ教室」(NPO法人可児市国際交流協会委託)

次年度就学年齢の子どもに対して円滑に小学校へ入学させるための日本語指導及び生活指導、保護者へのガイダンス等を実施した。参加人数は年長児23名であった。

下記の方針を日本の幼稚園・保育園に近いスタイルで運営し、小学校入学前までに「できるといいね」とされていることが1つでも多くできるように、1人ひとりの発達の状況に応じて肯定的な対応とスモールステップを大切にする指導を行った。また、牛乳指導や給食体験などを必要に応じて行った。

##### 1. 自分でできるよ～自立を促す～

- ・体力をつける
- ・公共施設の使い方がわかる
- ・日本のマナーがわかる

##### 2. みんなといっしょに～社会性を育む～

- ・集団生活に慣れる
- ・教室生活のルールがわかる
- ・時間の区切りがわかる
- ・友達や保育者と関わる
- ・支援ボランティアと関わる

##### 3. がんばるよ～自己実現を可能にする～

- ・先生の指示が聞ける、わかる
- ・自分の名前がわかる
- ・小学校で必要な学習姿勢を身につける
- ・鉛筆の持ち方がわかる
- ・運筆力をつける
- ・ひらがなに親しみをもつ

#### ウ) 不就学・不登校・自宅待機の子どもの就学支援教室「ゆめ教室」

(NPO法人可児市国際交流協会委託)

家庭環境その他の事情により、不就学、不登校となっている子どもに学校につながるための

日本語指導及び教科指導を行った。

また、今年度は、コロナ禍の学校休校による学習の遅れを懸念して、就学前支援「ひよこ教室」卒業の新1年生を対象に、学校再開に向けて、オンラインによる指導を行った。

◆不登校・不就学の児童生徒への支援（3名）

- ・市内中学校とのケース会議 及び、定期的な連絡連携会議への参加
- ・日本語、教科指導、心のバランスを整える「ゆめスマイル」教室実施
- ・家庭訪問、保護者懇談

◆コロナ感染予防のためのオンライン授業（1名）

- ・学校休校中、新入生に向けた学習指導

エ) 就学年齢を超えた子どもの進学等に向けた支援教室「さつき教室」

(NPO 法人可児市国際交流協会委託)

主に就学年齢を超過した子どもに対して、高校進学への教科指導、日本語指導、生活指導を実施した。参加人数は年間26名であった。(退室者6名)

- ・日本語教材を活用し、文法積み上げの日本語の基礎を指導し、作文や面接の練習を行った。また、進路に合わせ、国語(日本語)、数学、英語をしっかりと指導し、5教科受験対象者には、受験対策として理科、社会を指導した。
- ・可児市教育委員会の進学ガイダンスに参加し、フィリピン語、ポルトガル語通訳を入れて進学の説明を行った。また可児市国際交流協会での進路説明会を開催し、先輩との交流の場を設けた。
- ・保護者面談を、入室時、個別面談などで2回以上行うようにした。
- ・演劇ワークショップで将来について考える取組みを実施した。
- ・アーラ主催の多文化共生プロジェクトに参加し、将来について考える取組みを行った。
- ・岐阜女子大学や中部学院大学の大学生とリモートによる交流を行い、日本語による自己表現を通して学習意欲の向上に取り組んだ。

③不就学等の外国人の子供に対する日本語、教科若しくは母語指導又は学習習慣の確保に係る指導を学校外において行う指導員の研修

【ゆめ教室】

「研修会」という形ではなかったが、中学生に対しての指導法を考える際は、本事業の高校進学支援「さつき教室」にサポーターとして関わり、指導法を参考にしたり、コーディネーターと常に、話し合うことで、問題点を解決した。

④不就学等の外国人の子供に係る地域社会との交流の促進

「さつき教室」、「ゆめ教室」、「ゆめスマイル」、「ひよこ教室」の対象者に地域住民との交流や、高校に進学した先輩及び、就職した先輩の話を聴く機会を定期的に設けた。

- ・「さつき教室」の生徒を中心に高校見学を行い、6校を訪問した。  
東濃高校、八百津高校、加茂農林高校、加茂高校定時制、犬山高校定時制、東濃実業高校  
高校見学、オープンキャンパスに多く参加することにより、学校や生徒の様子、学習内容を知り、具体的な進路をイメージすることに繋がった。

⑥その他不就学等の外国人の子供の就学の促進に資する地域独自の取組

ばら教室KANIのコーディネーターを中心に不就学児調査を行い、実態把握と不就学者には就学指導を行う。

- ・住民基本台帳から就学年齢のある外国籍児童生徒のうち、学齢簿に記載されている児童生徒を除いたリストをつくり、実態(ブラジル人学校等、帰国(転出)予定、居所不明(居住実態無し)、不就学)を調査する。
  - ・調査の結果、不就学であった家庭にばら教室KANIのコーディネーターが就学を勧める。
- ◎就学年齢のある外国籍児童生徒の転入手続き時、人づくり課の国際交流員の協力を得て、市民課と学校教育課の連絡を確実にし、新規の不就学者をつくらばい。

### 3. 成果と課題

#### 【成果】

##### <ひよこ教室>

- ・就学前において、学校や可見市教育委員会、こども課、子育て支援課との連携により、入学前に教室に子どもの様子を見に来てもらうこと、学校の先生方と情報交換をすることができた。また、入学前の心構えや特別な支援が必要な子どもに対して、引継ぎ及び適したクラス設定の準備などをスムーズに行うことが出来た。
- ・「ひよこ教室」においては、教育委員会、教室コーディネーターと連携し、未就園児や来日間もない年長年齢児を積極的に受け入れ、1日でも多く日本語指導を受け、就学に向けた気持ちの準備ができるよう、支援することが出来た。

##### <ゆめ教室>

- ・不登校を引き起こしている要因は様々である。単に日本語で授業についていけないから行きたくないという理由だけではない。心のケアも大事で、指導者にとっては、日本語で理解させる指導とともに、心のバランスを整えられる力も必要になってくる。そのような研修を準備するのは、容易ではないが、一人一人個々に児童生徒に向き合い、関わることで、有効な指導法が蓄積され、今後、似たようなケースの子どもために活用できるのではないかとと思う。

##### <さつき教室>

- ・社会人とのワークショップや、大学生とのワークショップ等を実施して、課題に取り組んだり、悩みを共有したりするようになり、他者との関わりや、他者への思いやりや協調性がはぐくまれ、勉強に対するモチベーションにつながった。そして、退室者が少なく、多くの生徒が継続的に学習することができた。
- ・入学した高校の日本語教育担当教諭・進路指導担当教諭との懇談の機会を設けたことにより、「さつき教室」から入学した生徒の情報交換ができた。
- ・可見市教育委員会の担当者が入試に関する各中学校宛の情報を、協会にも情報提供してくれたため、昨年度と比べ受験へのスムーズな対応ができた。
- ・調べ学習として、自国の文化を調べ、「国際理解教育」の出前授業を市内小学校3校で行った。小学生との交流や日本語での発表を行い自信につながった。

#### 【課題】

##### <ひよこ教室>

- ・教育委員会、小学校、教室コーディネーターと連携しながら、未就園児を洗い出し、保護者へ「ひよこ教室」に行くよう働きかけ、受け入れるという流れをつくり、対応を行ってきた。その結果、入室につながり、保護者には小学校入学への心構え、子どもには集団生活及び日本語を学ばせることができたケースも多かった。一方で、経済的困窮、両親が共働きのため、教室の時間前後に子どもの面倒を見られる人がいない、教室までの交通手段がないなど、様々な事情で、「ひよこ教室」に通うことができない子どももいた。こういった子どもたちの情報を教育委員会、小学校にフィードバックし、小学校に入ってから体制を整えた。
- ・保護者の中には、金銭的なことや日本文化に慣れないことから、子どもの就学にまだ積極的になれない方もいる。保護者への働きかけも重要となってくる。
- ・年度末が近づいてから校区をまたがる引っ越しをする、教室での名前と小学校に登録した名前が異なる、途中から子どもが教室に来なくなる、保護者との連絡が取りづらいなど、日本語指導以外にもサポートが必要な場面が多く、教育委員会、学校との情報共有等、更なる連携の強化が必要である。

##### <ゆめ教室>

- ・こども課、子ども相談センター、ソーシャルワーカーなど、公的な組織が関わり、情報開示や連携会議の参加など、ケース解決に向けて、非常に時間が効かたり、問題顕解決の観点の相違も見られる。潜在的に問題を抱えている子どもも含めて、一人でも多くの子どもを救うには、今後どのような体制を構築すればいいのか、考える必要がある。

##### <さつき教室>

- ・生活習慣、生活のリズム、携帯依存、精神的な問題から、遅刻や欠席が目立つ。
- ・指導者の教え方のスキルアップや研修の機会が必要
- ・教育や高校進学する意味について、保護者の意識や情報量が圧倒的に少ない。

#### 4. その他(今後の取組等)

##### <ひよこ教室>

- ・今後も市教育委員会、学校、こども課、子育て支援課との連携をより密にし、子どもの就学に対し理解がない保護者に対し、積極的な働きかけを行っていく。
- ・外国籍の子ども向けの認可外保育所との連携を継続し、1人でも多くの年長児が就学前に日本語指導を受けられるように支援していく。

##### <ゆめ教室>

- ・連携先の拡充及び、強化
- ・つまづきが多くみられる小4・5・6年生の学習支援の見直しや心理的ケア
- ・特に不登校傾向の子どもをもつ保護者への心理カウンセリング

##### <さつき教室>

- ・市教育委員会、各中学校、各高校、県教育委員会、保護者との連携の強化が必要。
- ・指導者内で、生徒の事についての話し合いだけではなく、教え方・寄り添い方について当協会の養成講座の参加の促しや、教室内の指導者で、指導方法について考える機会を設ける。
- ・公共の場の使用マナー、SNS の利用方法等、生活する上での文化の違いや理解、自己管理能力を高めるための活動の機会を設ける。
- ・キャリア教育:進路、ライフプランニング、職業選択など、教室外の人と関わり、視野を広げられる機会を増やす。また、フレビア以外のイベント等のボランティアに参加し、地域の人との交流の機会を増やし、生きた日本語を学習する。
- ・保護者への支援や情報提供の機会を増やす。

※ 枠は適宜広げること。(複数ページになっても差し支えない。) 成果物等があれば別途提出すること。